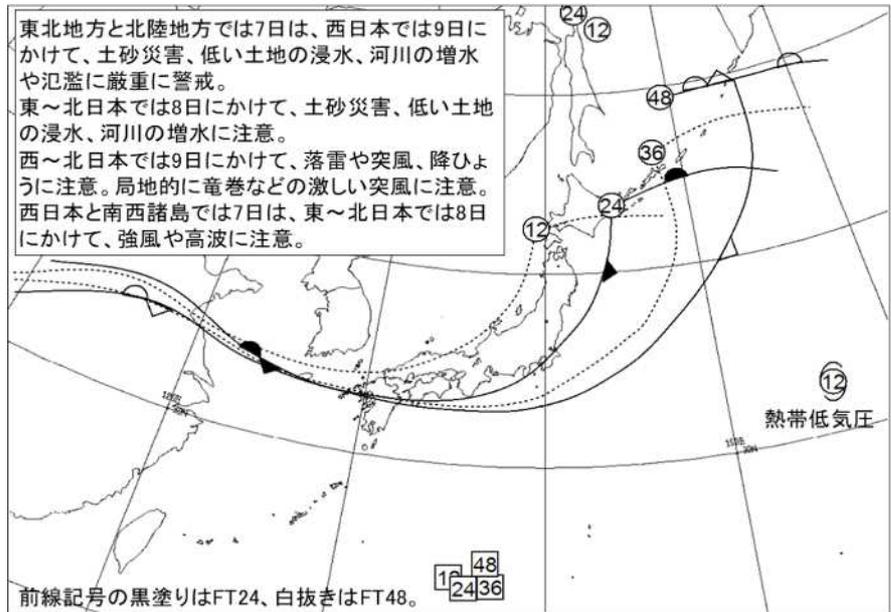


### 1. 実況上の着目点

① 500hPa5820m付近の強風軸に対応し前線が華北から日本海を通り東北地方へのびている。また、500hPa5760m付近のトラフ対応の低気圧が日本海にあって、東進。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、西～北日本日本海側では雷を検知し激しい雨や非常に激しい雨を解析。また、前線や低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、西～東日本では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

② 500hPa5940m以上の高度場に対応する高気圧が日本の南にあって、ほとんど停滞。南西諸島と西～東日本太平洋側は高気圧に覆われて晴れている所が多い。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、8日にかけて北日本を北東進し、前線は本州を南下する。前線はその後9日にかけて、東シナ海～西日本～東日本南岸付近に停滞する。また、次の500hPa 5760m付近の-9℃以下の寒気を伴うトラフが8日には東～北日本へ進む。前線や低気圧に向かう850hPa  $\theta$  e350K前後の下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東北地方と北陸地方では7日は、西日本では9日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に嚴重に警戒。特に北陸地方では7日朝にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。また、東～北日本では8日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に、西～北日本では9日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項②の高気圧は、9日にかけて日本の南にほとんど停滞。また、8～9日は大陸の高気圧が本州付近に張り出す。西～北日本の2項①の降水の影響がない地域では9日にかけて、晴れて気温が上昇し真夏日や猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、高気圧と2項①の前線や低気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。南西諸島と西日本では7日は、東～北日本では8日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：東北・九州北部・九州南部150、北陸120、東海・近畿100mm。
- ② 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・近畿・中国・九州北部・九州南部3m。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本は警報基準を、北日本は注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。